令和７年度

幼稚園だより　９月号

文京区立千駄木幼稚園

心に残る毎日を支えて

園長　篠澤　恵理

夏季休業中の預かり保育では、自分の好きな玩具で遊ぶ子や、お化け作りやお祭りごっこなどをしようと準備する子など、ゆったりとした時間の流れの中で、思い思いの遊びに取り組む姿が見られました。中には、風船バドミントンをして体を動かすことを楽しむ子や、じっくりと時間をかけながら小さなブロックで様々な作品を仕上げる子もいました。物の準備や場所の設定は、個々の思いが叶うように寄り添いながら変えていきました。また、暑さの状況を見ながら、水遊びやシャボン玉なども楽しみました。

預かり保育では、様々な立場の教職員が子どもたちと関わるため、本園では、全教職員で子どもの育ちや友達との関わりについて共有できるように、連絡会の開催や連絡ノートの活用等、様々な工夫をしています。連絡ノートには、異年齢の関わりの中で、年下の子のことを思いやる姿も記載されていて、互いに育ち合っている日々を嬉しく思います。2 学期を前に、担任との連携も大切にした連絡会で、子どもたちの様子を共有したところです。預かり保育での経験が、日々の保育と連動していくことを願っています。

この夏は、千駄木幼稚園における預かり保育の実践について、「全国国公立幼稚園・こども園研究協議会東京大会」にて、本園教諭が前園長と共に提案発表を行いました。本園の取り組みについて全国の先生方と協議し、他園の実践を知る機会にもなりました。また、講師の先生からのご助言を受けることもできました。子どもたちが、居心地の良さを感じながら、個々のペースを尊重した関わりや環境を工夫をしていくことの大切さを学びました。今後も、子どもたちが安心して自分の遊びを楽しめるように、一人一人のやりたい遊びに寄り添いながら、教員間の連携を生かして保育環境の更なる見直しを図ります。

さて、 8 月末には、2 年ぶりとなる同窓会を開催し、小学 1 年生から 6 年生までの約 190 名程の修了生が来園しました。園庭や園舎を歩きながら、「この場所で」「この遊具で」などと、当時の思い出を懐かしく語る姿がありました。9 月からの園生活も、幼稚園時代の思い出が、子どもたちの心に温かく残る毎日になるように、教職員の連携を密にしながら支えてまいります。

「虫を見付けたよ」

「大きなシャボン玉が出来た！」